

災害に備える

災害への備えに 「防災総合ガイドブック」を活用！

「防災総合ガイドブック」は、災害に関する基本的な情報から、事前の対策、災害発生時の対応について網羅したものです。忘れた頃にやってくる災害に備え、防災総合ガイドブックを使って改めて防災について見直してみませんか。



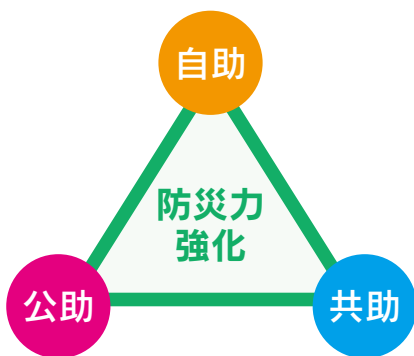
▲防災総合ガイドブックは、役場総務課（2階）や町内各施設で配布。ホームページでも閲覧可能。

■浮き彫りとなる「公助の限界」

防災においては、自分の身は自分で守る「自助」、周りの人たちと助け合う「共助」、行政や防災機関による公的支援である「公助」の3つが重要とされており、これまでの災害対策は「公助」が中心でした。

しかし、「公助」には限界があります。

東日本大震災や阪神・淡路大震災のような大規模災害になると、行政がすべての被災者を迅速に支援することが難しく、また、行政自身が被災して機能が麻痺してしまう場合があることが浮き彫りとなりました。



▲3つのバランスの取れた取り組みが防災力強化につながります。

桂川町では、平成27年3月に「桂川町地域防災計画」を策定しました。この中で、「自助」「共助」「公助」が連携し、防災機関、住民、事業者が力を合わせることが基本的な考え方として示されています。

この連携を推進するため、自分でできる防災対策を行い（自助）、地域や近隣の人々と互いに協力しながら防災活動に取り組むこと（共助）が大切です。

■桂川町地域防災計画を策定 「自助」「共助」「公助」の連携

■「防災総合ガイドブック」で 日ごろからできる備えを



▲ハザードマップは、避難の際に携帯しやすいよう、雨風の中でも使用できる紙で作られています。

5月下旬に各戸配布された「防災総合ガイドブック」には、重要性が高まりつつある「自助」「共助」の具体的な内容を中心に、日ごろからできる備えについての情報が、数多く掲載されています。

このガイドブックを参考に、災害時の持出品の準備や対応などを家族で話し合っておきましょう。

また、ガイドブック巻末のハザードマップは、洪水や土砂災害の危険性がある場所を地図上に図示したもので、住んでいる地域がどのような被害が起きる可能性が高いかを予め確認できるほか、避難所や避難時のポイントなど、災害時に役立つ情報も掲載しています。